グループホーム　まつかわ
（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0191400183		
法人名	医療法人　鴻仁会		
事業所名	グループホームまつかわ		
所在地	函館市松川町41番17号		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400183-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域とのつながりを大切に行事等に参加し清掃活動や花壇の植え替え作業やお祭り参加や町民が運営推進会議に参加など交流を深めています。
また、同じ法人の勉強会やお祭りの企画など、つながりもあり情報交換や相互に協力関係を築き入居者様がより安心されその人らしいが出来るように支援しています。
ホームは家と同じように靴下で過ごしていただき、入居者様が楽しみながら出来る役割作り、（洗濯たたみやモップ掛けや食事作り）お手伝いなどを行っていただいています。
毎年ホームの目標を立て、職員は個々の目標を持ちスキルアップや接遇の向上に努めています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームの運営母体は函館市内で多種にわたる高齢者福祉の事業を展開している医療法人である。系列グループホームや事業所とは行事や会議、勉強会、災害等で連携が構築されており、お互いに刺激を受けながら日々知識や技術の習得に努めている。運営者が町内会長を務めていることもあり、地域とのつながりを大切にし、町内の清掃活動や花壇の花の植え替え作業、日帰りの小旅行、お祭りなど積極的に交流している。職員は利用者がその人らしく地域の一員として安心して暮らせるよう、毎年ホームとして職員個々にも目標を持ち、質の高いケアサービスを目指して日々研鑽している「グループホームまつかわ」である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（2階 ひだまり アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階 ひだまり）	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本指針、ホームの理念や毎年目標を立て、職員一同共有し実践に取り組んでいる。	利用者が地域の中で社会参加をし健康で笑顔を忘れず、自分らしく「いきいき」暮らせるように支援することを理念とし、スタッフ会議で毎年目標を定め全職員が理念の実現に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃活動や花壇の植え替えやお祭りなどに参加し交流を深めている。	運営者が町内会長を務めており、町内会の清掃活動や花壇の花植え、お祭り、町民の集い、餅つきなど地域の方々と積極的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人自体が地域に対して開かれており色々な形で地域貢献を行い、当ホームでも運営推進会議など地域の方が参加し理解していただけるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の様子や法人の地域での取り組みや職員のスキルアップの事など入居者様と一緒に作ったお菓子を頂きながら和やかな空間で報告や話し合いの場を作りサービス向上に取り組んでいる。	2か月毎に開催し、家族、行政の担当者、包括支援センター、町内会などの方が出席している。事業所の行事活動、災害対策、利用者の日々の暮らしぶりを報告する等、話題は多岐にわたり、サービスの質の向上につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの連絡を行い参加していただけるようにし欠席の際は資料等を郵送し協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政の担当者とは問題解決のための相談や情報交換を密に取ることはもちろんの事、書類等は直接出向いて届け、関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社会福祉協議会や他の講習会に職員が参加し、身体拘束委員会など定期的に行い検討し、介護上の工夫をしている。	職員は拘束によるリスクを理解しており、事業所内に身体拘束廃止委員会を設置して、定期的に検討会を開催し、その内容を全職員で共有して意識向上を図り、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	社会福祉協議会や他の講習会に職員が参加し、ミーティングや会議の際、管理者が指導したり、職員の言葉遣いなど注意を払い未然に防ぐよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階 ひだまり）	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についての研修を受けミーティング等で職員全員が周知理解できる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以前より十分に説明を行い、入居予定のご本人やご家族に理解と納得を得て契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議または季節行事出席時等や電話党で意見や要望を尋ね運営に反映できるように努めています。	訪問時や運営推進会議、行事出席など折々に常に声がけをして何でも言ってもらえる雰囲気作りに努め、表出された課題は速やかに検討して運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、勉強会、ケアカンファレンスを定期的に開催し各職員の意見を聞く機会を設けている。また必要に応じて個人面談を行っている。	個人面談や職員会議、勉強会等を定期的に開催して意見やアイディアを聴く機会を多く設け、法人の全体会議で検討して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施し、職員個々の実績や努力を把握しまた目標に応じたスキルアップの相談やアドバイスを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、ユニット間の交換研修があり、外部の研修にも積極的に参加している。また、参加した職員の報告を受け、回覧して学ぶようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所での見学やイベントに参加し交流の機会をもちサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階 ひだまり）	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が不安に思っている事や不安に感じている事を把握、共有し、早急に解決が出来るように検討し、安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に必ずご家族様と話し合いし、要望や心配事などを伺い、具体的な支援について職員で話し合い、まめにご家族に報告し安心してもらえるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望に沿えるように職員で話し合い、入居者様がより良い日常を過ごせるように対応し、ご家族にも安心していただけるよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の人格、尊厳を尊重し、人生の先輩として尊敬し学んでいく姿勢を忘れないように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、ホールや居室など希望された場所でいつでも気軽に立ち寄れる環境作りや遠方のご家族には管理者が電話連絡を取り近況報告など行い、関係作りに取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と連携を取りながらお友達などに連絡し面会に来ていただいたり、年賀状やクリスマスカードなど作成し支援を行っている。馴染みの床屋など職員が付き添い対応している。	昔から利用している理美容院に行き続けたり、家族からの情報や本人との会話からお友達を把握し連絡を取って面会に来ていただき、クリスマスカードや年賀状を送って、継続的な交流が出来る様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席において、入居者様同士の関係に配慮した配置になっており、コミュニケーションを取りやすい環境作りや入居者様同士で洗濯たたみや食後のかたずけなどを行っていただいている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階 ひだまり）	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談を受けたりこれまでの関係性を大切にしながらご本人やご家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室には本人が使用していたものや馴染みの物などを持ってきて頂き置くようにしている。また日常の生活の中から希望を引き出せるように努めている。	職員は常に利用者の言葉の端や表情、仕草から真意を推し測り、さり気なく確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族、介護支援専門員よりサービス利用の経過等について詳しく把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録をこまめにつけて一日の過ごし方の分析を行っている。また、ラジオ体操やリハビリを毎日行い現状維持に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティングにて常に課題とケアの在り方について話し合いを行っている。また、担当職員によりモニタリングを行いカンファレンス会議を定期的に実施している。	職員会議でアセスメントを含めて話し合い、担当職員によるモニタリングをし、定期的にカンファレンスを実施して家族の意見や希望を取り入れ、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を毎日記録し、情報を共有している。また。モニタリングの際には介護記録を参考にし見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合上入居者様の希望する用件やかかりつけ医の診察など困難な場合は事業所が代わって柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のグリーングリーン作戦のボランティアに参加している。避難訓練は消防署の立会いの下、実施・指導を受けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より、ご本人様やご家族様に希望を伺い、ご家族様と協力しながらかかりつけ医の受診ができるように支援している。	利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう家族と協力しながら支援している。運営母体が医療法人で24時間の医療体制を整えていると共に複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階 ひだまり）	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による健康管理指導があり日常での変化を常に相談し急変時なども連絡適切な指示や受診が出来るような体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に安心して退院できる様に入院先関係者との情報交換・協力体制が取れるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については入居前からご家族・ご本人と話し合いし入居者様の状態を見ながら都度ご家族様と話し合いを持ち、法人内外との連携をし支援に取り組んでいる。	利用開始時に本人や家族に重度化や終末期についての指針を説明し、意向の把握に努めている。母体が医療法人であり、利用者の状態の変化に応じて都度、家族と話し合い本人や家族の意向に副える様、系列の事業所等を紹介し、支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故に備えマニュアルを用意し、日頃より意識し、実践できるように職員は、ホーム内で勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて消防立合いの下、避難訓練を行い昼夜を問わず、入居者様が安全に避難できるように取り組んでいる。また、1階のデイサービスや同法人の協力体制が出来ている。	年2回消防立ち合いの下、同法人や1階の系列事業所と協力しながら避難訓練を実施している。地域との協力体制も徐々に整いつつある。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の気持ちを尊重し自尊心や誇りを傷つけない様に言葉使いや対応に配慮している。	利用者を人生の先輩として敬い、尊厳や誇りを損ねない様に言葉がけや接遇に配慮し、さり気ないケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面において自己決定出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人のペースを大切にし希望に沿って支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前からの生活習慣を尊重し化粧品や服装など季節にあったもの場所に合ったものを身につけられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階 ひだまり）	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人で統一され管理栄養士が作成しているが食事の下ごしらえや調理、盛り付けは職員と一緒に行っている。	法人の管理栄養士が統一献立を作成し、利用者は職員と一緒に下ごしらえや盛り付けを行っている。利用者個々の機能に合わせてミキサー食、刻み食等に分けて誤嚥しない様に調理方法を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々の食事量、水分量を都度記録し把握しており、状況にあわせてソフト食やきざみ食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、本人の力の応じた見守り、介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導、介助、見守りを行い排泄パターンを把握する為24時間の排泄表を使用しトイレでの排泄や自立に向け支援している。	職員はトイレでの排泄を大切にし、利用者の排泄パターンを把握して、時間や顔色を見てさり気なく誘導したり介助することにより自立に向けた支援をしている。衛生用品類も本人の状態に合わせて検討し使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録を活用して水分量の把握や排便の確認をしている。他に腹部のマッサージや運動なども行って予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2ユニットでお風呂が一つしかないので曜日などは決まっているか、入居者様の状態などで時間帯など相談しながら対応している。	2ユニットで浴室1箇所、シャワー室1箇所である。曜日は決めているが利用者の希望や状況で臨機応変に対応し、週に2回の入浴は確保する様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息を取りながら、一人一人の体調や状況に合わせた活動をしてもらうことにより、夜もぐっすりと眠っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報は個人ファイルに保管し、職員がいつでも確認できる様にしている。また体調の変化がある場合はすぐに主治医や看護師に連絡をとり確認をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴を参考にしたり、一緒に行うことでその方ができることを見出すようにして、楽しく生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（2階 ひだまり）	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は散歩や計画を立てて床屋や買い物やドライブなど企画し出かけれるように支援している。	天気の良い日は町内の花壇を見ながら近くを散歩し、季節毎に桜や紅葉を見に行ったり、町内会の日帰り旅行、ピクニック等で遠出のドライブを楽しみ、家族との外出や外泊も自由にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は立て替え金方式にし、使った分のみご家族に請求しているがご本人の希望がある方に対しはご家族と相談し台帳などで管理者が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族と話し合い、ご本人様が電話希望された際、時間など考慮し対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や湿度もこまめに調整している。季節感を大切にし入居者様と一緒に飾りを作り飾ったりし季節感を楽しめるようにしている。	広くて明るい居間にはソファーや椅子、食卓テーブルを配置し、利用者は好きな場所で思い思いに編み物をしたり、塗り絵などをして自由に過ごしている。平行棒や滑車などの訓練用具があり健康づくり、体力維持のための環境を整えていて、利用者は日中ほとんど居間で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広くゆったりくつろげれるように、椅子やソファーなどを配置し、気の合った入居者様同士がゆっくりお話しされたり、個々でのんびりできるような工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前よりご本人やご家族に実際に居室を見ていただき、ご家族にも家具など使いなれたものをご本人と相談の上で持って来ていただくようにしている。	本人や家族と相談をして使い慣れた家具を持ち込んだり、家族の写真を飾ったりして、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、浴室など手すりがある。台所はオープンキッチンでカウンターがあり、その方の能力に応じてお手伝いできるように工夫している。		

グループホーム　まつかわ
（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0191400183		
法人名	医療法人　鴻仁会		
事業所名	グループホームまつかわ		
所在地	函館市松川町41番17号		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400183-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームでは独自の理念や目標を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作りに心がけています。
また当法人には三つのグループホームや有料老人ホーム、同じ建物内にはデイサービスもあり　相互に協力・情報交換や勉強会などを行い、介護技術や質の向上に努めています。
ホールからはほとんどの居室が見渡せる環境にあり、居室から出てくるとすぐにスタッフや他入居者の方々の顔が見える安心できる環境にあります。またホール内には、機能訓練用平行棒や滑車運動ができる設備がありいつでも好きな時間に筋力低下予防の運動が出来ます。ADLの低下や認知症の進行により出来ない事も増えてきていますが、その人らしい生活のお手伝いできるように支援しています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年2月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（3階 こもれび アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（3階 こもれび）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念や今年度の目標をホーム内に掲示し職員全員で共有しケアの実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会主催の催し物や清掃活動にも積極的に参加し地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しご家族やご本人、町会の方々などを招き実践の中から得た認知症の方々への理解や支援方法等を紹介している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での内容についてはミーティングや申し送り時等に職員に伝え、各方面からの出席者の意見や要望等を真摯に受け止めサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各担当部署と、連絡を取り合い、協力体制を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設けており、検討した内容を職員が周知している。日中は、いつでも出入りができ、開かれたホームになるように取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の講習等に職員が参加し、管理者や職員もケアの仕方や言葉遣いなどに気を配り、未然に防ぐことが出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（3階 こもれび）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の講演会に参加し、支援体制を整えるように同法人内などで勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には契約内容や重要事項説明書などを丁寧に説明し不安や疑問点を尋ね、理解・納得頂けるよう分かりやすく説明するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、御家族には、電話の際や、来訪時には要望などが無いか伺い、サービス向上に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを毎月行い、職員の意見や提案などを報告したり、定期的に個人面談を実施し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談にて意見や提案、個々の目標の確認を行いスキルアップのついてのアドバイスを行い環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行われる同法人内の研修参加や外部開催の研修会への参加にも開催内容や日時の告知や日程調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会・勉強会の参加・交流で情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（3階 こもれび）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活するにあたって本人困っている事や不安な事常に職員が把握するように努め、また早急に解決できる様にスタッフ会議を通じて検討し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から不安な事・心配な事を必ず聞き職員間で把握し安心して頂けるようにミーティングにて検討を行い改善に向け取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの方針や支援方法・支援内容など詳しく説明しご本人やご家族の要望に応えられる十分な話し合いがされている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何でも介助で行ってあげるのではなく残存機能を十分に発揮できる様配慮し家事など出来る事は一緒に行うよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状態変化を面会時や電話で随時報告し情報を共有しておりご家族の意見を聞きながら支援を進めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力を得ながら帰宅や外出を試みており、面会の際は居室でゆっくり過ごせるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際やお茶の時間は入居者様同士の関係に配慮した席にし、話しやすい環境作りを行っている。また、入居者様同士でテーブル拭き、食器拭き、後片付け等行って頂いています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（3階 こもれび）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも何かあったときには、相談対応出来る事を家族には伝えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様との関わりの中で要望や思いを聞いたり、コミュケーションが困難な場合はご家族に聞いたり、日常の行動や表情の変化を敏感に察知するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様やご家族に生活環境や馴染みの暮らし方などの聞きとりを行い、サービス利用までの経過についての把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活リズムを大切に出来るよう努めている。決まり事をなるべく設けず、出来ること出来ないこと、楽しいこと、不愉快な事を見極めるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様やご家族の意向を踏まえ、定期的にカンファレンスやご家族を交えた担当者会議を開催し、介護計画へ反映できる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を毎日記録し、情報を共有している。また。モニタリングの際には介護記録を参考にし見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合上入居者様の希望する用件やかかりつけ医の診察など困難な場合は事業所が代わって柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事や、清掃活動、餅つきなどを通して地域とのつながりを作っていけるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通院していた病院も含め、希望される医療機関で受診出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（3階 こもれび）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携看護師による健康管理指導を受け、日常でとらえた些細な変化や体調の変化などの情報を報告・受診に向けての相談を行い適切な看護や受診受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様個々の主治医に常に連絡を取り相談ができる関係をつくっている。また、入院した際には担当者と情報交換を密にし早期退院ができるようにサポートしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から当ホームができる事を十分に説明しながら指針を職員間で共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故に備えマニュアルを用意し、日頃より意識し、実践できるように職員は、救命講習会に参加し、ホーム内でも勉強会を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に備えて消防立合いの下、避難訓練を行い昼夜を問わず、入居者様が安全に避難できるように取り組んでいる。また、1階のデイサービスや同法人の病院との協力体制が出来ている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、個々の人格を尊重し、その人らしい日常生活が送れるよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から、声掛けや会話の中で、入居者様の思いを引き出せる環境に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや希望に合わせてその方らしい生活が出来るよう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際、御本人に衣類を選んで頂きその人らしい身だしなみができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（3階 こもれび）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の調理、盛り付けを職員と一緒に行っており昼食は毎日職員も一緒食事をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士は献立を作成しておりカロリーやバランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを介助または見守りで行っており週2回洗浄剤を使用して清潔を保つようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄などチェック表を基にパターンを把握しトイレ誘導や声掛けを行い個々に応じた排泄の自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として個々の好みに合わせた飲み物やゼリーなど提供し水分摂取量に気をつけ、また午前には毎日個々に合わせた運動や体操などを職員と一緒に行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室が2ユニットで一つしかない為、入浴日は決まっていますが体調や気分により入浴日や時間の変更を行い対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調などに合わせ昼寝や就寝時間を調節したり状況に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容は個人ファイルにあり、いつでも確認できる様になっている。また変更があった場合申し送りや連絡ノートで職員全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴などからそれぞれが出来る事でたのしんで頂けるようにレクを取り入れている。また天気の良い日には外に出て散歩などを楽しまれています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価（3階 こもれび）	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会はあまり多くないが散歩やドライブまた町内会の行事にも積極的に参加して頂けるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて支援している。お金の管理は管理者が行っており、立て替え金方式で使った分だけ御家族に請求している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は対応し、お手伝いさせて頂いている。クリスマス等は、カードを入居者様と職員が一緒に手作りし、郵送するなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、入居者様が集まりやすいようにテーブルや椅子の配置をして、入居者様と季節感を大切にし、寛げる空間作りを行っている。温度、湿度など、時間を決めて、それ以外にも気づいた時に点検している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは、入居者様が集まりやすいようにテーブルや椅子の配置をして、入居者様と季節感を大切にし、寛げる空間作りを行っている。温度、湿度など、時間を決めて、それ以外にも気づいた時に点検している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使いなれた物を持参して頂くよう入居前よりご家族にお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで、ホールより見渡すことができ、役割をする際にも死角が少なく、安全に暮らしていけるよう工夫を行っている。		

（別紙4-2）

事 業 所 名　グループホーム まつかわ

作　成　日：平成 25年　3月 12日

市町村受理日：平成 25年　3月 14日

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	町会とのつながりは出来ているが、最近長崎でのグループホームでの火災がありました。ご近所の方とは挨拶や行事の際、声掛け等はしていますが、災害時など助け合える関係作りがまだまだに思えます。	御近所の方と助け合える関係を築く。	入居者様と散歩の際など、積極的に声掛けする。避難訓練や行事の際、一歩踏み込んだ声掛けをし、ホームの行事等に参加して頂き、立ち寄り易い環境をつくる。	12ヶ月
2	13	ヘルパー2級の職員が多く、介護に対して日の浅い職員が多い。	職員が個々に目標を持ちスキルアップ、接遇の向上を目指す。	グループ開催の勉強会の資料づくりの参加。研修会へ参加し、報告書を作成。希望者は資格取得の講習会参加時は勤務調整などの支援をする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1）項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。
注2）項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。